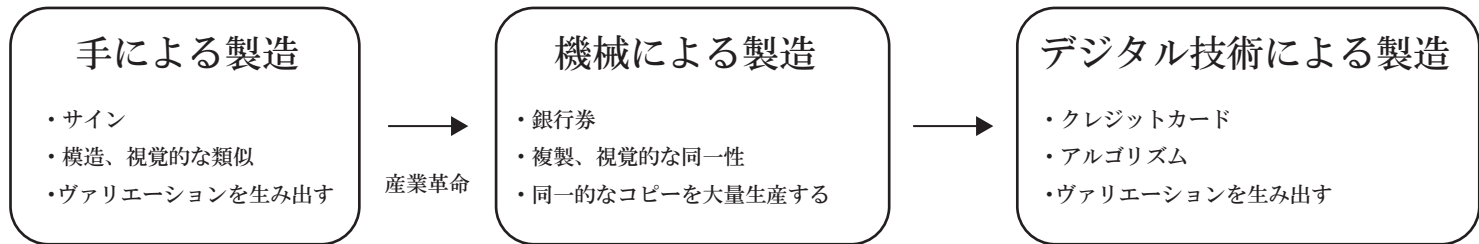


1 可変性、同一性、微分的差異



建築のデザインは、純粹に情報を操作することであり、文化とメディアにおけるテクノロジーによって定義される

1.1 建築と同一的なコピー：そのタイムライン

機械化による大量生産に対して、建築家は新たな建築形態を発明すべき。大量輸送に対して、都市計画家は新たな都市形態を発明すべき。手描きによる図面のコピーが信用ないため、非視覚的なメディア（アルファベットや文字、数学）がより正確なコピーをする場合に安全。建築の抽出は言葉であり、視覚を通したものではなかった。

↓機械革命での印刷のによる大量生産

技術的な情報を新たな視覚的フォーマットで記録し、安全に到達しうることに基づく

有名な建物を、古いものも新しいものも同じようにして、視覚的な模範として図解するだけでなく、構造と装飾の双方を含む、建築の構成要素の新たな図解カタログを普及するという任務

同一性のなすパラダイムが同一のコピーからなる文化を誘発し、産業革命よりずっと前の西洋に浸透していく

1.2 代著と表記法

計画図面の発明、あるいは利用する様態を発明したことにより、建築家の仕事のやり方を決定的に変えた

芸術は原作者自身の手によって作られたもの（autographic）から代著によるもの（allographic）に変わった。

アルベルティは建設とデザインの区別を明確に述べ、その新たな幾何学的定義は、新たな代著的な建設法に適った、首尾一貫した表記ツールの一式をもたらした。また歴史上始めて、建築家は透視図を避けるべきであると述べた。それは正確に寸法を採ることができないからである

1.3 原作者性

建物のアイデアは、「心によって考え出され、諸々の線と角度からなり、博学な知性と想像力によって完成される」アルベルティ

大きな建設計画は多くの出来事が建設の間に起こり、オリジナルのデザインを変更するかもしれないが、「原作者によるオリジナルの意図」は常に保持されるべき

アルベルティ的な、代著による建設の方法において、原作者によってなされる唯一の仕事は建物のデザインであるが、建物とそのデザインが完全に同一であるとみなされなければならない

1.5 幾何学、アルゴリズム、そして表記法の障害

アルベルティのデザイン・プロセスは、ひとりの原作者によって建物のあらゆる様相が描き出され、あらゆる建設職人に理解されなければならない

建築のデザインにおける表記システムは幾何学を基本とするため、かたちを決定するのに幾何学が制限を与えたが、これらの表記法の障害は現代のデジタルテクノロジーにおいてはほほないものとなった

1.6 同一性の衰退

1990年代ではデジタルツールを用いて、幾何学によって再現が不可能なかたちが好まれて作られるようになった。

ゲーリーの事務所ではデジタル・テクノロジーは従来の建築家による同一性の複製の追求を超越するためでなく、さらにそれを促進するために使われた。

ゲーリーによる縮図器的なプロセスは、表記法によるパラダイムに終止符を打ったのではなく、その絶頂に達した

つまり、古き単純な幾何学の世界から「フリー・フォーム」と前例のない形態的な複雑さからなる新たな宇宙へと繰り越された

キーワード

同一なコピー 構想する人と作る人 原作者性 可変性 インタラクター 表記法
デジタルテクノロジー アルゴリズム カスタマイズ オブジェクトイル

1.7 アルベルティ・パラダイムの反転

表記することと建設することを分離したアルベルティの原理とは異なり、デジタルアーキテクトはデザインと制作を同時に行うようになりつつある

オブジェクトイルの理論はオブジェクトそのものは、デザインの領域からはこぼれ落ちるはずであることを含意している、なぜならそのオブジェクトも出来事も本質的には、可変的な存在とみなされるからである

オブジェクトイルは可変的なヴィジュアルの種を無限に生み出すことができる

2 興隆

2.1 アルベルティと同一的なコピー

アルベルティは正確に複製できないイラストレーションをつかわず、その代わりにテキストによる叙述か、他の数字か文字ベースの方策に置き換えた

アナログのイメージがもつ欠陥に対し、それらをデジタル化した

2.2 デジタルへ

2.3 ウィンドウズ

2.4 I.D. ピクチャーとファクシミリの力

アルベルティは積極的にデジタル化に取り組んでおり、現代のデジタルテクノロジーとのアルベルティのデジタルプロセスと現代のそれとの唯一の重要な違いはスピードだけである

2.5 アルベルティの模倣ゲームとそのテクノロジーの欠陥

2.6 アルベルティ・パラダイムの発明

アルベルティの同一性への探求は、テクノロジーの不十分さによって妨げられていた。その一方で、アルベルティによる表記法のメソッドは、大部分の人に採用され、5世紀の間にわたり西洋の建築理論と実践において中心だった

3 衰退

3.1 フォーム

3.2 スタンダード

3.3 エージェンシー

近代的な建築の原作者性はアルベルティパラダイムの発生とともににはじめて生じたものである

アルベルティパラダイムとは、建築を一つの代著的芸術として定義し、建物の表記法から、ある原作者によるデザイン行為の同一的なコピーとして定義するものである

4 エピローグ：スピリット・エージェンシー

あらゆるパラメトリックデザインは原作者性に2つにレベルをもつ。第一位の原作者は、オブジェクトイル（プログラムまたは系列、あるいは生成力をもった表記法）のデザイナーである、第二位の原作者は個別の最終生成物をデザインするために類的オブジェクトから種的 specific オブジェクトを特定する